りょうかわ

学校だより　令和3年5月7日発行　第3号　新潟市立両川小学校

立候補がもつ意味，込められた熱い思い

校長　　中村　雅芳

　専門委員決めに３時間を要しました。評議員，応援団の申し出をじっくりと待った結果です。専門委員は，立候補でしか決定しません。これまで私が受けもった学級は，すべて立候補で決定してきました。これは，私のこだわりです。／大抵どこの学級でも立候補を募り，立候補者がいなければ推薦に移るという手順を踏むでしょう。しかし，それでは責任の押しつけになってしまう場合があります。名前が挙げられ，みんなから推され，多数決で手を上げられれば，嫌でも引き受けざるを得ない状況になるでしょう。そういうことも時には必要だと思いますが，何かすっきりしないのです。／また，「推薦してもらえればやってもいい」という人が時々います。「友だちから推薦される喜びをかみしめたい」という人もいるかもしれません。しかし，それも私は甘いと思うのです。事を成そうとするときに，人からの後押しを期待するのは覚悟がない証拠です。覚悟がない人は，いざというときに責任を周囲に押しつける可能性があります。「あのとき，仕方なく引き受けたんだぞ」と。みんなが自分に期待してくれているという実感は，何時間も重ねた話合いの中で十分得られたはずです。その上で，最後は自分で決断し，立候補するべきなのです。／私が立候補にこだわる理由は，もうひとつあります。それは「誰にでも可能性がある」ということです。いままでリーダーとなるにはふさわしくない態度や服装だった人がいたとします。その人が「過去を捨て，リーダーにふさわしい服装やリーダーにふさわしい態度に変われる可能性はない」と言い切れるでしょうか。人間は変われます。誰にでも可能性はあります。要は，その人の覚悟次第です。変わろうとする気持ちを大切にしたい。変わろうとする勇気をもち，決断した人には，堂々とその役職についてほしい。そう思うのです。その代わり，一旦引き受けた役職への責任は追及します。自律，自戒を厳しく求め，途中で投げ出すようなことはさせません。／みんなに話したことですが，専門委員決めの時になると，必ず思い出す話があります。もう

１０年も前のことです。当時，受け持っていた３年生の学級で，体育祭の軍団長を決める際，ある事件が起こりました。それは，みんなが軍団長として期待していたある男子生徒が「軍団長は絶対にやらない」と宣言したことから始まりました。／タイミングは何事にも大切です。その生徒は本気でやりたくない訳ではなく，ただ，少しゴネてみようとポーズを取ったことがこじれて，引っ込みがつかなくなってしまったのです。そういう心の状態を察知しながらも，若い私は怒りを表す以外，事態を打開する術を知りませんでした。「そんなにやりたくなければ，やらなければいい。３年生最後の体育祭を，軍団長なしで恥をかけ！」そう言い放って，教務室へ戻ったのです。／約１５分後，２人の女子が「話がある」と言って，私のところへやってきました。そのうちの１人が私にこう言いました。／「先生，私に軍団長をやらせてください。女子が軍団長をやるといえば，男子も少しは考えるでしょう。私の立候補に男子がケチをつけたら，男子にやってもらえばいいのです。お願いします。私に立候補させてください。」／この言葉を聞いて，私は涙が出ました。心から，嬉しかった。結果，彼女の思惑どおりに事は運び，体育祭は大成功で幕を閉じました。／「自分は犠牲になっても，学級がまとまりさえすればいい」という彼女の心は，とても貴いものです。実際に，彼女がこんな考えをもって立候補したことを知っているのは，私と彼女の友だち数名だけ。名声がほしくて，誰かにほめられたくて，彼女は動いたわけではありません。純粋に，学級のことを思って彼女は動きました。こういう気持ちを「無私」と呼びます。彼女の行動を，「無私」の心を，みなさんはどう思うでしょうか。／本当にいい学級とは，賞状をたくさん獲得する学級ではありません。お互いに相手のことを心から思い，学級のことを心から思い，行動できる人が一体何人いるのか。学級全体にその雰囲気があるのか。そこにかかっていると思います。／３年２組はみんなで，学級最初の危機を乗り越えました。素晴らしいスタートを切れました。全役職を立候補してくれてありがとう！みんなの勇気にありがとう！これからもこの気持ちを忘れずに。みんなで喜び合い，拍手し合った瞬間を忘れずに，歩んでいきましょう！期待しています。（３年２組学級通信「しあわせ」No.6　2004.4.16発行）

昔の学級通信を長々と引用してしまいました。１７年経ったいまも，私の思いは何も変わりません。４月３０日（金），音楽室に集った４，５，６年生の応援団員たちは，みんな，熱い思いと勇気をもって立候補してきた面々です。応援団員に人数制限がある中，悔しい思いを抱えながら，選ばれた友だちを快く送り出した人もいたそうです。そんな熱い思いをもった精鋭たちに，担当の坂井千鶴教諭は，次のように語りかけました。

「運動会までの２９日間，自分たちの時間やエネルギーを全校のみんなのために費やせるリーダーのみなさんには敬意を表します。いろいろ大変なこともあるかと思いますが，運動会が終わったときに『苦労も多かったけどそれ以上に得るものが多かった』と思えるようになってほしい。みんなからの期待に応えられる人であってほしい。みなさん一人一人の心のコップに熱い思いややる気が満ちていることが，全校のみんなの心のコップを満たすことにつながるのです。みなさんに期待しています。」

【応援団長 澤口楓さん 杉山遙さん】

運動会が，いまから本当に楽しみです。みんなで，頑張っていきましょう！